

∞ 医療 × IT Solutions



株式会社オプティム

東京本社
〒105-0022 東京都港区海岸1丁目2番20号 汐留ビルディング 21F

九工大前 オフィス
〒820-0067 福岡県飯塚市川津 680-41 飯塚研究開発センター 103号室

佐賀本店
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1 オプティム・ヘッドクォータービル

お問い合わせ・資料請求 <https://www.optim.co.jp/medical/>



※ 記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。このパンフレットに記載された社名、製品・サービス名はそれぞれ各社の商標もしくは登録商標です。

※ このパンフレットに記載された情報は発表日現在のもの、または開発中のものです。
商品名及びのサービス内容・機能・仕様・お問い合わせ先などの情報は予告なく変更される場合があります。予めご了承ください。

Printed on 2019.07

OPTiM[®]

医療は次のステージへ

オプティムは医療が抱える課題をITの力で解決します

世界でも例を見ないほどの超高齢化社会に突入する日本では、高齢化に伴う医療費の高騰や、医療従事者不足など、さまざまな問題に直面しています。当社では、さまざまな産業でAI・IoTサービスを提供し、第4次産業革命型産業へと再構築する取り組みを行っています。これまでに培ったAI・IoT技術で医療業界の課題を解決し、医療費の削減、医療現場の業務効率の向上、医療従事者の働き方改革などを実現することで、医療の未来に貢献します。



施設内のセキュリティ強化

未登録者の侵入、進入禁止区域にて不審な行動をカメラで検出すると管理者に通知します。少ない人員でも施設内の危険を早期に把握し、安全性の高い施設運営をサポートします。

医師、看護師の業務効率化

施設内に設置したカメラ*から危険状態を検出すると、管理者や看護師に通知します。施設内や患者様の見守り業務負担の軽減につながります。

*利用者様の合意を得たうえで、カメラ設置します。

課題の見える化

病院の来院者数や待合室・会計の混雑を数値化し、見える化します。日時、週、月単位で分析して、スタッフの配置やオペレーションを見直すためのデータを提供します。

日本初※！スマートフォン・タブレットを用いた
オンライン診療サービス

※株式会社オプティム・MRT株式会社調べ



診療予約から決済までの一連の流れを、スマホ・タブレットからオンライン上で実現できます。

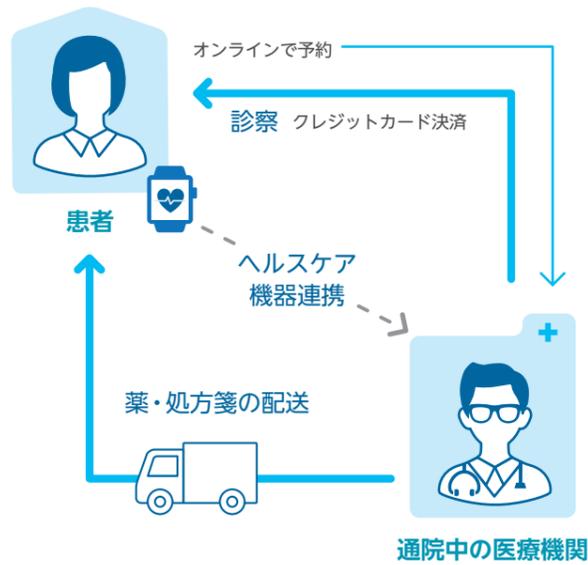
オプティムの遠隔支援技術とMRT株式会社が培ってきた医療情報および医師・医療機関のネットワークを組み合わせた新しい形のサービスをご提案します。



在宅医療支援サービス



病院と同じような見回り・診療・お声がけを実現し、さらに緊急事態を検知できるような環境を提供します。



治療中断や受診機会損失の軽減

スマホを活用することによって、患者は時間や場所の制約がなく受診でき、治療継続率の向上に繋がります。

赤ペン・指差しによる的確な指示※

ビデオ通話中に赤ペン・指差しマークを表示することで患者への指示・症状説明を的確に行えます。

バイタルデータの取得・共有

ヘルスケア機器から取得した患者のバイタルデータを医療機関に共有することが可能です。

※赤ペン機能や指差し機能は、スマートフォン・タブレット・スマートグラスからのライブ映像を活用した遠隔作業指示の基本特許技術「Overlay Technology」(特許第5192462号)を用いることにより実現しました。

馴染みのあるテレビを活用

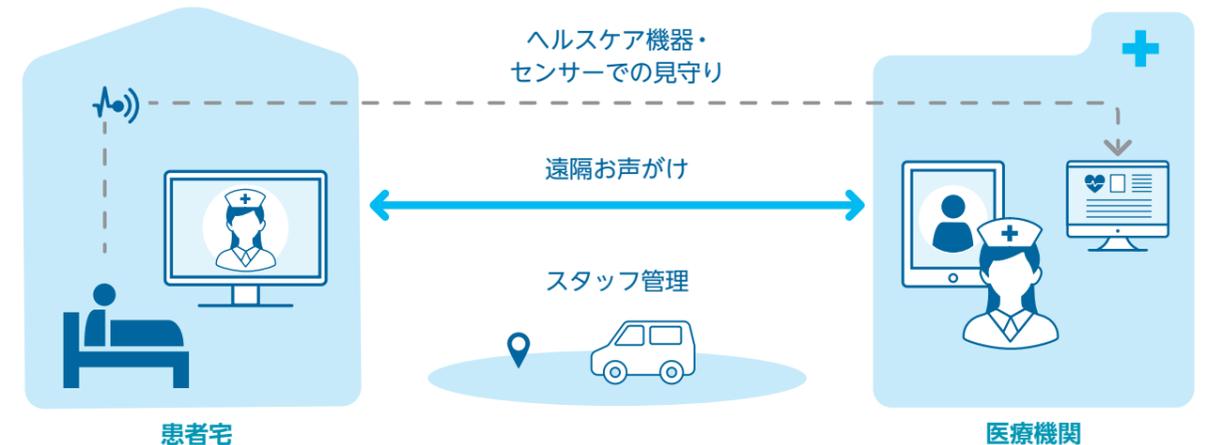
高齢患者でも馴染みがあり、使いやすく、医師の顔が見やすいテレビを使用します。

病院と同じような見守りを実現

医療機関は、患者の日常生活状況やバイタルデータを見守る事が可能です。

スタッフの業務効率化

医療機関スタッフの所在地やタスクの管理ができ、訪問業務の効率向上に繋がります。



健康相談ポケットドクター 予約相談

スマートフォン・タブレットを用いた健康相談サービス

好きな日時に予約し、待ち時間なしで全国にいる専門の医師に相談することができるサービスです。



オプティムの医療・介護向けプラットフォーム活用事例
エヌ・デーソフトウェア株式会社は、在宅で介護サービスを受ける方々に安心・安全な環境で過ごしていただくことを目指し、TV電話の見守りツール「ほのぼのTV通話システム」を提供しています。





国内外のAIプログラムメーカーが開発したさまざまな医療画像診断AIプログラムを、医療現場で普及／実用化させるプラットフォームです。

AIプログラムの豊富なバリエーション

オプティムを含め国内外のAIプログラムメーカーが開発した、さまざまな医療画像診断支援AIプログラムが利用できます。

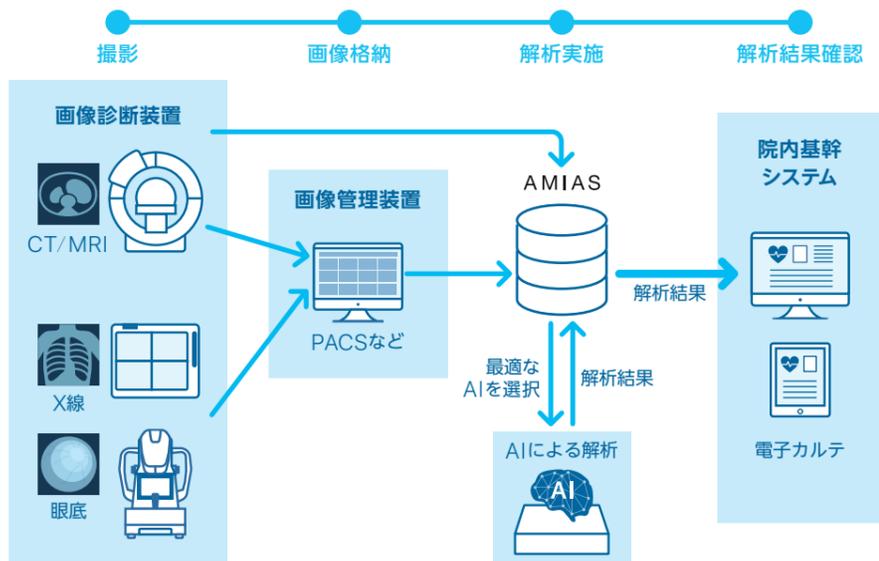
ベンダーニュートラルな機器接続

PACSやモダリティなど院内システムをメーカー問わず接続できるため、既存の院内システムから得られた画像データに対し、さまざまなAIプログラムで解析できます。

最適なAIプログラムを自動で選択

院内システムから取得した画像データを、あらかじめ定めた条件に基づき最適なAIプログラムで解析を行うことができます。

医療画像データの流れ



佐賀大学医学部の医学的知見、佐賀大学医学部附属病院の臨床データと実践の場、オプティムのAI・IoT技術を組み合わせ、高度医療の実現・地域医療の連携強化に向け、未来型医療の新たなイノベーションを創出する研究を実施しています。



メディカル・イノベーション・プロジェクト

研究例

- ・医療画像診断支援 AI の開発
- ・国内外の医療画像診断支援 AI を評価する臨床研究の推進…等

眼底画像診断支援システム OPTiM Doctor Eye



医薬品医療機器等法に基づいて認証された医療機器プログラムです。

「眼底画像診断支援システム OPTiM Doctor Eye」は眼底検査^{※1}で撮影された眼底画像を解析し、視神経乳頭陥凹(しんけいにゅうとうかんおう)^{※2}領域を抽出して、その計測値を提供することが可能となります。

※1 眼底検査とは、硝子体・網膜・脈絡膜・視神経乳頭を撮影し、実際に医師が直接目で見るもしくは写真による観察を行う、眼科検査の一つ。

※2 視神経乳頭陥凹とは、視神経乳頭(網膜にある視神経の神経線維があたり、眼球の外へ出ていく部分)がへこんでいる状態。

